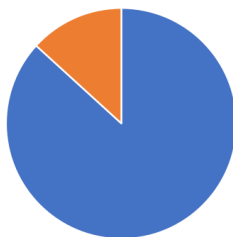


カダバーサージカルトレーニング 参加者アンケート調査

- CSTにおける組織の状態やトレーニングの感想などの調査
- CST後1-3か月後にFormsを用いて学内参加者を対象にアンケートを実施
- 参加者全員アンケート + 執刀医に追加アンケート

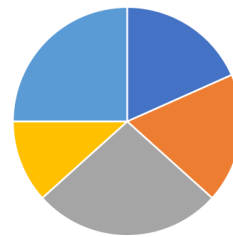
参加者全員アンケート

参加者性別



● 男性 59名(86.8%)
● 女性 9名(13.2%)

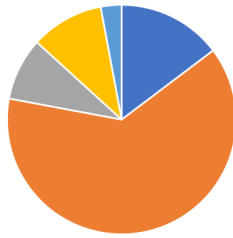
参加者卒後年数



● 1-5年目 10名(14.7%)
● 6-10年目 10名(14.7%)
● 11-15年目 23名(33.8%)
● 16-20年目 7名(10.3%)
● 21年目以上 18名(26.5%)

回答者数:68名

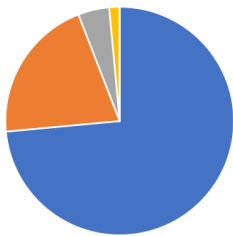
CSTで用いる御遺体の組織の状態は、生体とどれくらい類似していましたか？



非常に近い感覚で手術が可能である	10名(14.7%)
やや近い感覚で手術が可能である	43名(63.2%)
どちらともいえない	6名(8.8%)
あまり生体に近い感覚とは言えない	7名(10.3%)
まったく生体に近い感覚とは言えない	2名(2.9%)

回答者数:68名

CSTは外科医の手術技術の向上に貢献すると思いますか？

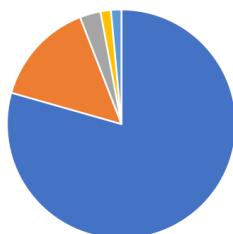


とてもそう思う	50名(73.5%)
ややそう思う	14名(20.6%)
どちらともいえない	3名(4.4%)
あまりそう思わない	1名(1.5%)
全くそう思わない	0名(0%)

回答者数:68名

CSTが手術手技の向上に貢献すると思われる以下の要因に関して、あなたの感想として当てはまるものを選択してください。

①実臨床の手術ではできない手技や機材の試行、手術部位周辺解剖の探索・確認が可能である

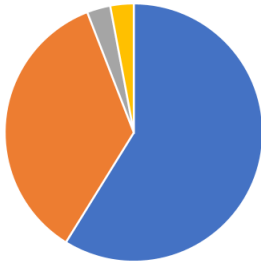


とてもそう思う	54名(79.4%)
ややそう思う	10名(14.7%)
どちらともいえない	2名(2.9%)
あまりそう思わない	1名(1.5%)
全くそう思わない	1名(1.5%)

回答者数:68名

CSTが手術手技の向上に貢献すると思われる以下の要因に関して、
あなたの感想として当てはまるものを選択してください。

②若手医師・他医師に対して実臨床の手術よりも細かい教育、指導が可能である。



● とてもそう思う	40名(58.8%)
● ややそう思う	24名(35.3%)
● どちらともいえない	2名(2.9%)
● あまりそう思わない	2名(2.9%)
● 全くそう思わない	0名(0%)

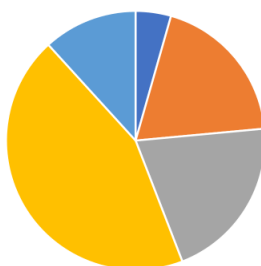
CSTはシミュレーターやアニマルラボよりも手術手技の習得に有用だとおもいますか？



● とてもそう思う	44名(64.7%)
● ややそう思う	15名(22.1%)
● どちらともいえない	7名(10.3%)
● あまりそう思わない	2名(2.9%)
● 全くそう思わない	0名(0%)

CSTのデメリットに関して、あなたの感想として当てはまるものを選択してください。

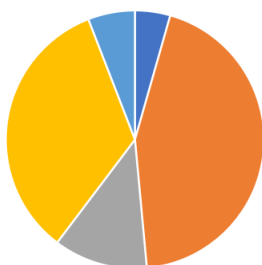
①死体で手術を行う事に抵抗がある。



● とてもそう思う	3名(4.4%)
● ややそう思う	13名(19.1%)
● どちらともいえない	14名(20.6%)
● あまりそう思わない	30名(44.1%)
● 全くそう思わない	8名(11.8%)

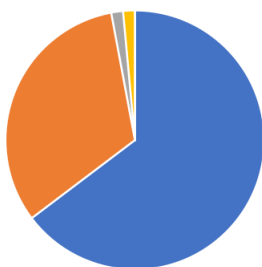
CSTのデメリットに関して、あなたの感想として当てはまるものを選択してください。

②臭いがきつい。



● とてもそう思う	3名(4.4%)
● ややそう思う	30名(44.1%)
● どちらともいえない	8名(11.8%)
● あまりそう思わない	23名(33.8%)
● 全くそう思わない	4名(5.9%)

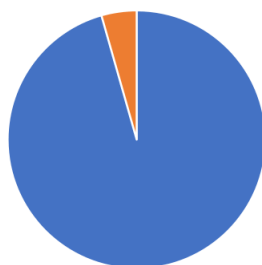
外科医がCSTを行うことが実臨床で手術を受ける患者さんのメリットになるとおもいますか？



● とてもそう思う	44名(64.7%)
● ややそう思う	22名(32.4%)
● どちらともいえない	1名(1.5%)
● あまりそう思わない	1名(1.5%)
● 全くそう思わない	0名(0%)

回答者数:68名

今後もCSTの機会があれば参加したいですか？

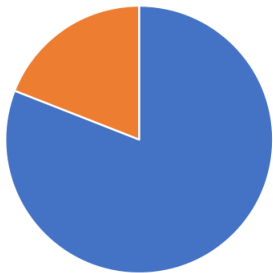


● はい	65名(95.6%)
● いいえ	3名(4.4%)

回答者数:68名

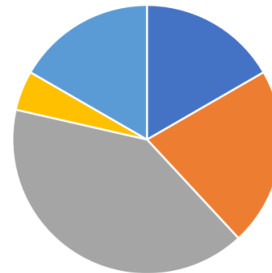
執刀医アンケート

参加者性別



- 男性 34名(81.0%)
- 女性 8名(19.0%)

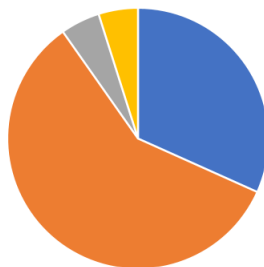
参加者卒後年数



- 1-5年目 7名(16.7%)
- 6-10年目 9名(21.4%)
- 11-15年目 17名(40.5%)
- 16-20年目 2名(4.8%)
- 21年目以上 8名(16.7%)

回答者数:42名

本術式・手技をCSTで実施した目的は何ですか？



- すでに確立された術式・手技であり、執刀医も手術手技を習得しているが、さらなる技術向上のため。 13名(31.7%)
- すでに確立された術式・手技であるが、執刀医は実臨床での執刀経験がないか、経験が少ない術式・手技であり、技術の習得・向上のため。 24名(58.5%)
- まだ実臨床では確立されていない新規術式・手技の開発のため。 2名(4.9%)
- 若手医師・他医師の教育、指導のため。 2名(4.9%)

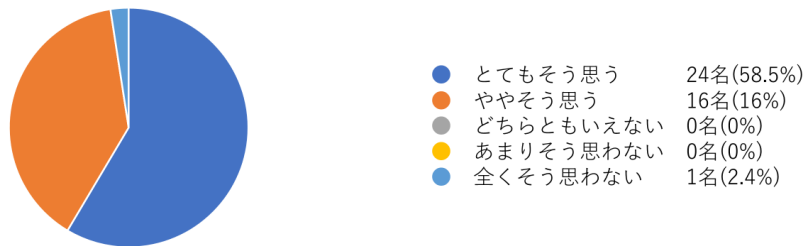
回答者数:41名

執刀した術式・手技の実臨床での執刀経験数を教えてください。



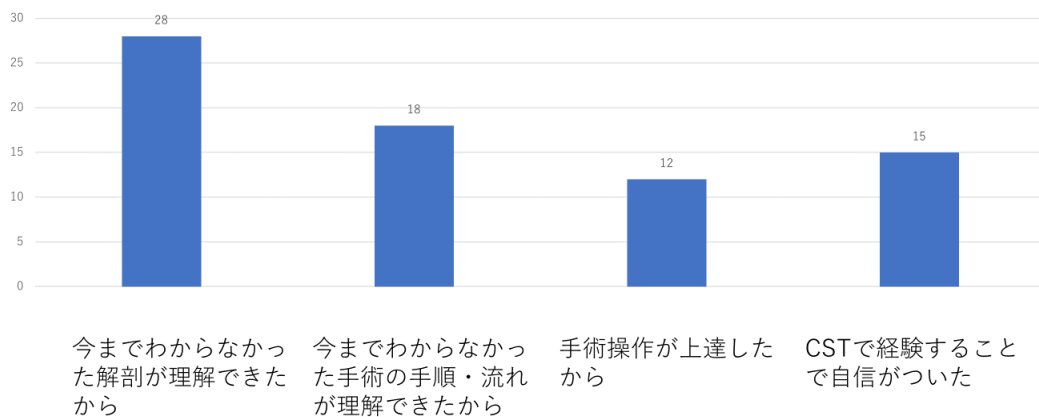
回答者数:42名

今回のCSTの経験により実臨床の手術手技が向上したとおもいますか？



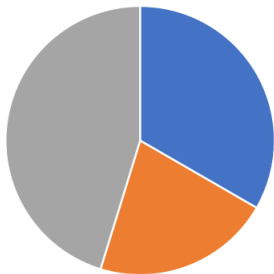
回答者数:41名

上記で「とてもそう思う」または「ややそう思う」と回答した方にお聞きます。
手術手技が向上した理由は何ですか？（複数回答可）



回答者数:41名

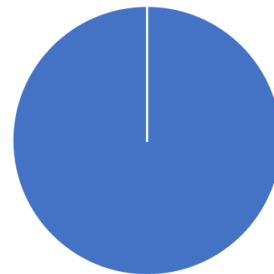
CST実施後から現在までにCSTで行った手術を
実臨床で執刀しましたか？



● はい 14名(33.3%)
● まだだが6か月以内に予定している 9名(21.4%)
● いいえ 19名(45.2%)

回答者数:42名

左記で「はい」と回答した方にお聞きします。
実臨床の手術でCSTの経験が役立ちましたか？



● はい 16名(100.0%)
● いいえ 0名(0%)

回答者数:16名

アンケートまとめ

- CSTでは実臨床の手術に近い感覚で手術トレーニングが可能であった。
- CSTの参加者のほとんどが、CSTが外科手術技術の向上に有用であると感じた。
- 臨床で普及しているものの執刀医が経験の少ない手術手技をCSTでトレーニングできた。
- 参加者のほとんどが今後もCSTがあれば参加したいと回答した。